

令和2年度 東村山市立化成小学校 学校評価報告書

学校教育目標 子どもたちすべてを一人の人格者と認め、尊重し、その個性を大切にしていこうと、そして、未来社会を生き抜く力を身に備えさせること、それが社会存立の基本であり、学校教育の原点である。この考えに立ち、「自主・協同」の建学の精神を踏まえ、自ら学ぶ力を育てる教育、生涯にわたって学習を続けるたくましい精神力と体力を培う教育、すなわち「実践的な生きる力」を育てる学校教育を推進する。
自分大好き 友達大好き 学校大好き 化成の子 1.わげをそえて発表できる 自分の考え 2.人のため進んで出せる ことばと行動 3.やり通す心とからだ

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 子供、教職員、保護者・地域にとって『出番と居場所のある学校』
【目指す児童・生徒像】 ①基礎・基本の確実な定着を通し、自ら考え、自己表現を図れる子供(確かな学力) ②生命尊重を基盤に、互いの人格を尊重し、ともに生きる子供(豊かな人間性) ③自ら進んで健康の保持・増進を図るとともに、運動に親しむ子供(健康・体力)
【目指す教師像】 ①深い子供理解と高い授業力をもつ教師 ②明るく、謙虚で責任感をもって、協働できる教師 ③教育公務員としての自覚と誇りをもつ教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 1) 成果○日々の教育活動や学校行事等を、保護者・地域により理解をしていただくために、お便りのポスティングや資料配布、学校紹介ムービーの上映会、学校紹介ポスターの掲示、学校主催の保護者・地域対象の講演会など、「地域に開かれた学校」として情報発信することで、理解を得ることができた。○中国蘇州市(彩香実験小学校、三元実験小学校)、特別養護老人ホーム(白十字ホーム)、国立療養所多磨全生園(ハンセン病資料館、山吹舎等)との「かわり」を大切にしながら取組(全生園の活播活動・緑の祭典「秋」での発表・記念植樹祭の参加等)が、教育活動の充実にも繋がった。○特別支援学級(青葉学級)、特別支援教室(けやき教室)、通常学級において、特別支援教育 校内委員会(コーディネーター)が中心となり、特別な支援が必要な児童への適切な対応や、家庭・関係機関との連携をスムーズに行うことができた。
 2) 課題○「学校における働き方改革」により、教師が心身の健康を損なうことのないよう業務の質的転換を図り、限られた時間の中で児童に接する時間や授業準備の時間、教師の休みの時間を十分に確保し、児童に必要な総合的な指導を継続的に行うことできるように改善を図る。○配慮を要する児童等への適切な支援と家庭・関係機関(子ども教育支援課、子ども家庭支援センター、児童相談所等)とのさらなる連携を図る。○あきさつ(あきさつ)の協働の観点からも、児童への継続的な指導をするともに、日常的な生活を通じた生活習慣の改善につなげる。○異校種(中学校)との有効な交流を構築し、児童の進路におけるスムーズなステップアップを図る。○特別支援学級(青葉学級)と通常学級の交流をより深める。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
学力向上	○授業の始まりに、その授業のめあて・課題・見通しを明確に伝えることやわかりやすい発問や板書を工夫する。また、個に応じた指導を行う。 ・特別支援教室の巡回指導員と連携を取りながら、授業のユニバーサルデザインの手法や個別のかわり方のヒント等を学ぶ。	3	3.4	○新学習指導要領の目指す観点を意識した授業改善が必要である。一教師の前向きな努力が大事であり、授業では、めあて・課題・見通しを明確に伝えたり、発問や板書を工夫していく。 ○個に応じた分かりやすい授業を行っていくことが大切である。	3	3.4	学習活動・形態ともに制約が多く、本来計画していた指導を行うために多くの工夫や努力をしてきた成果が評価されたと言ってよい。特に、児童の学習交流については、とても大切な活動であるので、それぞれが教科の特性を踏まえ、多くの工夫をしてきたことは、次年度に生かされると思う。
	○全教職員の共通理解のもと、授業に集中できる教室掲示の工夫や、話の聞き方、発言の仕方などの授業規律の徹底を図る。 ・特別支援教室の巡回指導員と連携を取りながら、授業のユニバーサルデザインの手法や個別のかわり方のヒント等を学ぶ。	3	3.5	○授業規律については、学年・集団の実態によって差がある。 ○特別支援の必要な児童へのフォローが必要である。 →組織的な体制づくりを継続し、実態を踏まえながら授業規律を作っていく。	3	3.3	今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学校公開・授業公開・保護者会等が実施できなかったため、個人面談で児童の学校生活の様子を伝えるのみとなった。学校日より、学年日より、学級日よりなどでもできる限り生活の様子等を伝えるように努めた。来年度は方法を工夫しながら発信を推進したい。
健全育成	○道徳の授業の改善に取り組み、児童の道徳的実践力の向上を図る。特に本校の道徳の目標である「自分や他の人のよさを見つけ、伸ばせる児童の育成」に力を入れる。	3	3.2	○道徳の授業で学んだことを全教育実践の中で意識的に指導していく必要がある。 →道徳や各教科の授業、様々な行事を通して	3	3.2	肯定的評価を行った児童が多い。実質的な関りをなかなか持つことが出来なかった毎日の中で、相手の立場や思いを大切にできたことは素晴らしいと思う自分の心が健康であることが他者に対してとてもやさしく出来ると考える。今後も心を育てる教育活動を行っていく。
	○生活アンケートを活用し、いじめ防止といじめの早期発見・早期対応を行うとともに、児童の悩み等に積極的にかかわるようになる。 必要に応じて組織的に対応する。	3	2.9	○傷つけられる言葉を言われたり、暴力を振るわれている児童に対して丁寧に話を聞きとりながら、課題の解決に図っていく。 →一人一人が大切にされている認識を持たせるよう声をかけをしっかりとっていく。	3	3.2	大体の児童が毎日楽しく生活できている。しかしながらその中で辛い思いやどうしたらよいか悩んでいる児童も数名いたことはしっかりと受け止めたい。生活アンケートのみならず、友達からの申し出や、本人からの相談を受けて発覚した事例もある。学校は一つ一つの声に耳を傾け、早期対応が求められる。学年、すこやかや対策委員会等、組織的に解決していくことは継続して行う。そのために情報交換や体制確認など日常的に行っていくことを確認している。
健康・体力づくり	○毎日の健康観察や保健・学活などの授業における健康指導、保健指導を通して、児童と保護者の健康に対する意識を高める。	3	3.4	○休み明けの「あさはすっきりカード」の活用や、毎日の健康観察、健康指導、保健指導を充実させた。朝食の摂取率は、100%に近いが、就寝時刻・起床時刻が遅い傾向の児童が少なからずいることが課題である。 →関係機関と連携をとり、保護者への働きかけを強く。	3	3.3	毎日の健康観察が例年以上に丁寧にいったことで、児童の健康に対する意識が高まってきていると考えられる。来年度以降も継続していきたい。
	○体育の授業の充実に加え、「中休みの外遊び」「化成マラソン」「化成なわとびシーズン」への児童の積極的な取り組みを働きかける。	3	3.1	○新型コロナウイルス感染症防止のため、体育や中休みの活動が制限されている。2学期以降、更に工夫を講じながら指導にあたりたい。	3	3.2	個人差が多いが、休み時間に外で遊ぶという当たり前のことが制約された時期を経験し、友達と外で元気に活動できるありがたみを実感することができたのではないだろうか。対策をたてつつ、できる限りの制約が少ない状態で元気に体を動かす場面を設定していきたい。
保護者・地域との連携	○緊急時における児童の安全確保の対応について、学校、保護者、地域でより実際に近い想定での訓練を行う。	3	3.5	○毎月の避難訓練をより現実的な避難訓練にするために保護者や地域と連携した避難訓練を現実化にしていきたいことがあったが、コロナ感染防止対応の工夫した訓練になった。	3	3.3	児童と保護者の評価が大きく離れた。今年度は避難訓練にたいが例年通りできなかったこともあり、学校での様子を保護者に伝える場面が少なかったことも要因。次年度は、どのような状況であれ、今年度の反省を生かして「命を守る」行動の大切さと実践を積み重ねていきたい。
	○さまざまな教科での保護者・地域の人材の活用を積極的に行う(英語・読み聞かせ以外)。	3		○新型コロナウイルス感染症防止のため、保護者・地域の人材の活用が不可能になったため。	3		実施している学年については学習効果が出ていると考えられる。来年度は積極的に取り組んでいきたい。
特色ある学校づくり	○望ましい集団活動の中で、かわり合い、認め合える児童相互の豊かな人間関係の育成を行う。今年度は、校内研究を通して、学級経営・授業において児童相互のかわり合いを深め、よりよい人間関係づくりや深い学びをめざした指導の工夫を多角的に模索する。	3	3.2	○新型コロナウイルス感染症防止のため、分散登校でかわり合いの対応をとってきた。今後校内研究や、行事等様々な活動を充実させていく中、かわり合いを意識的に増やし、	3	3.1	肯定的にかかわることができている児童が多い。教員評価については、いろいろと制約があったことで、授業の中でも計画を変更せざるを得ない状況であったと考えられる。今後もこの状況が続くことを念頭に置き、今年度の経験を生かした取り組みを情報交換をしながら考えていきたい。
	○通常学級と青葉学級との交流活動を意識的に設定し、互いに尊重し合う態度を育成する。今年度は、校内研究を通して、よりよい交流の在り方について模索する。 ・各学級に青葉学級児童を招いて給食交流をする。 ・運動会練習において、通常学級児童と青葉学級児童が共に練習をする。 ・理解啓発授業を全学級で実施する。	3		○新型コロナウイルス感染症防止のため、保護者・地域の人材の活用が不可能になったため。	3		例年に比べ交流活動そのものが少なかった。次年度は状況を見ながら例年通り、豊かなかわり合いから相互に学び合える活動を多く設定したい。